

2017年11月16日

第5回 全国外大連携プログラム 通訳ボランティア 育成セミナー 報告書

主催

全国外大連合

開催日程

2017年9月5日（火）～8日（金）

開催場所

神田外語大学（千葉県）

後援

東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部
文部科学省 外務省 観光庁 東京都 千葉県
2018平昌(ピョンチャン)オリンピック・パラリンピック大会組織委員会
公益財団法人 ラグビーワールドカップ2019組織委員会
公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会
NPO法人 日本オリンピック・アカデミー
一般社団法人 全国外国語教育振興協会

協力

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
一般社団法人 ホスピタリティ機構

目次

1. セミナー概要	・・・p.3
1-1 大学別の事前申込者数と受講者数	
1-2 学年別受講者数	
1-3 男女別受講者数	
1-4 対応可能言語	
1-5 第1回～第5回までの受講者数推移	
1-6 大学別の人材バンク登録者数	
2. 学生の参加動機	・・・p.6
2-1 参加目的	
2-2 参加へのきっかけ	
3. 参加後の自己評価	・・・p.8
アンケートによる集計	
4. 各講義内容について	・・・p.9
講義名	
講師名	
参加者課題『講義レポート』より	
5. セミナーの様子（写真）	・・・p. 33

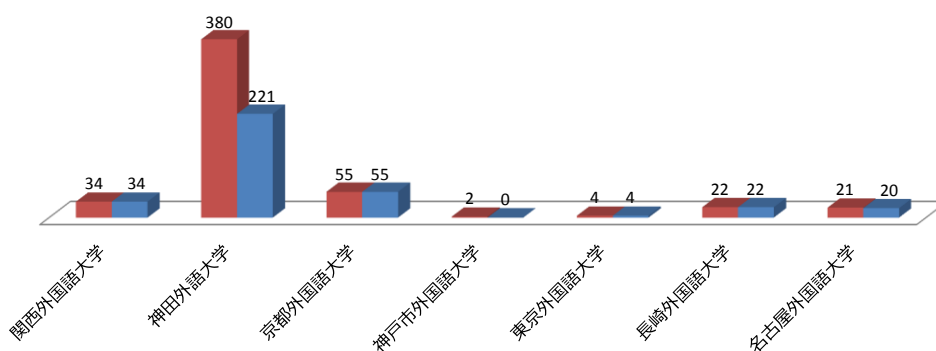
1. セミナー概要

1-1 大学別の仮申込者数と受講者数

単位：人

大学名	仮申込者数	募集枠 (英語)	募集枠 (英語以外)	当日受講者数	バンク登録者数
関西外国語大学	34	20		34	33
神田外語大学	380	120		221	159
京都外国語大学	55	20	各言語40名	55	49
神戸市外国語大学	2	20	・中国語	0	0
東京外国語大学	4	20	・韓国語	4	4
長崎外国語大学	22	20	・スペイン語	22	18
名古屋外国語大学	21	20	・ポルトガル語	20	19
合計	518	240	160	356	282
		400			

仮申込者数と当日受講者数

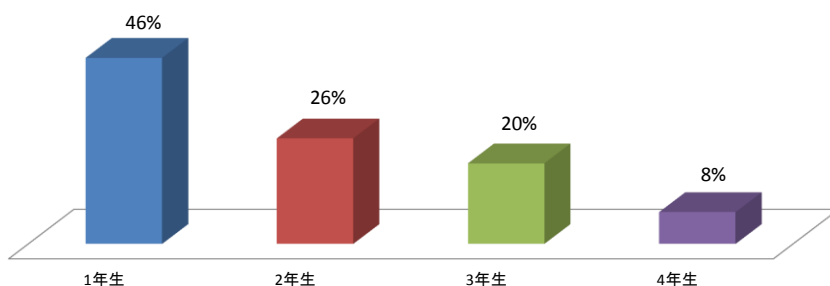


1-2 学年別受講者数

単位：人

大学名	BASICコース		INTERMEDIATEコース		大学別計
	1年生	2年生	3年生	4年生	
関西外国語大学	2	14	11	7	34
神田外語大学	87	70	51	13	221
京都外国語大学	51	2	0	2	55
神戸市外国語大学	0	0	0	0	0
東京外国語大学	1	1	1	1	4
長崎外国語大学	12	3	6	1	22
名古屋外国語大学	11	3	2	4	20
学年別計	164	93	71	28	356

学年別受講者数

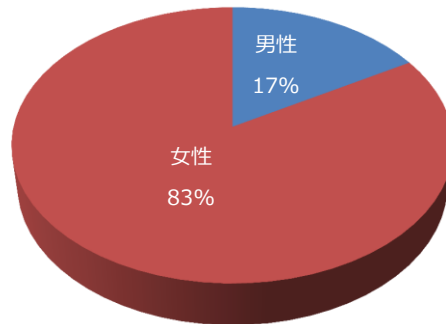


1-3 男女別受講者数

単位：人

大学名	男性	女性	大学別計
関西外国語大学	7	27	34
神田外国語大学	44	177	221
京都外国語大学	4	51	55
神戸市外国語大学	0	0	0
東京外国語大学	1	3	4
長崎外国語大学	1	21	22
名古屋外国語大学	2	18	20
男女別計	59	297	356

男女別受講比率



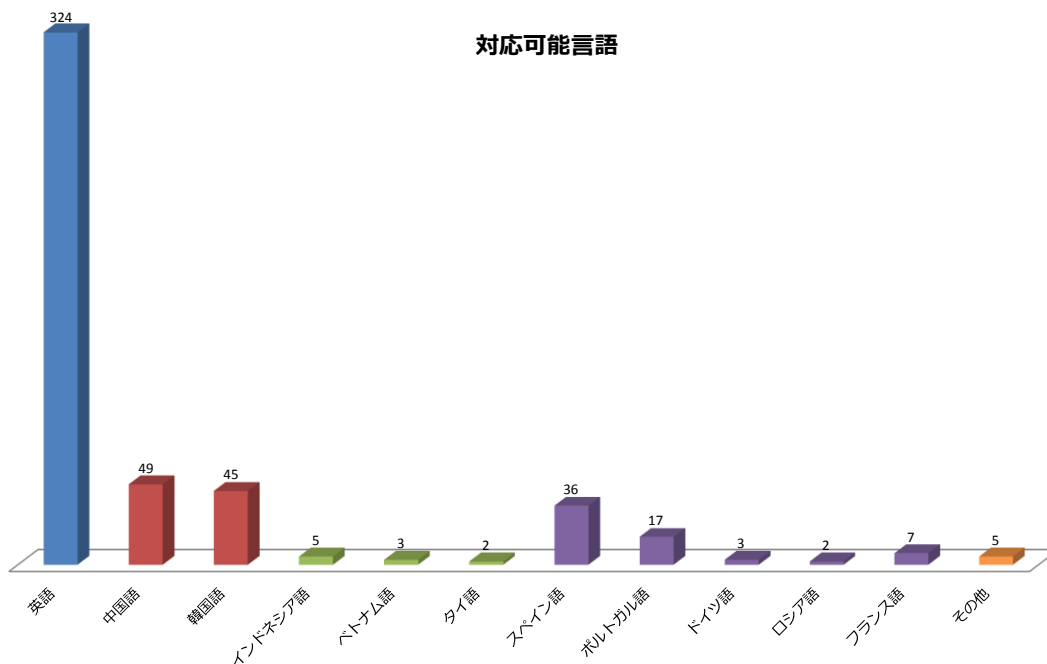
1-4 対応可能言語

単位：人

英語	中国語	韓国語	インドネシア語	ベトナム語	タイ語
324	49	45	5	3	2
スペイン語	ポルトガル語	ドイツ語	ロシア語	フランス語	その他
36	17	3	2	7	5

※受講者の対応可能言語内訳を示す。

対応可能言語



1-5 第1回～第5回までの受講者数推移

単位：人

大学名	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	各大学 総受講者数
関西外国語大学	27	24	29	46	34	160
神田外語大学	119	120	220	17	221	697
京都外国語大学	27	21	54	60	55	217
神戸市外国語大学	9	4	5	8	0	26
東京外国語大学	6	1	0	0	4	11
長崎外国語大学	21	13	29	11	22	96
名古屋外国語大学	27	14	30	36	20	127
回毎の受講者数	236	197	367	178	356	1334
受講者数推移（延べ数）	236	433	800	978	1334	

1-6 大学別の人材バンク登録者数（第1～5回開催分総計）

単位：人

大学名	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	各大学 総登録者数
関西外国語大学	27	24	29	39	33	152
神田外語大学	106	111	204	4	159	584
京都外国語大学	27	21	53	47	49	197
神戸市外国語大学	9	4	5	6	0	24
東京外国語大学	4	1	0	0	4	9
長崎外国語大学	20	13	25	6	18	82
名古屋外国語大学	26	14	30	24	19	113
回毎の登録者数	219	188	346	126	282	1161
登録者数推移（延べ数）	219	407	753	879	1161	

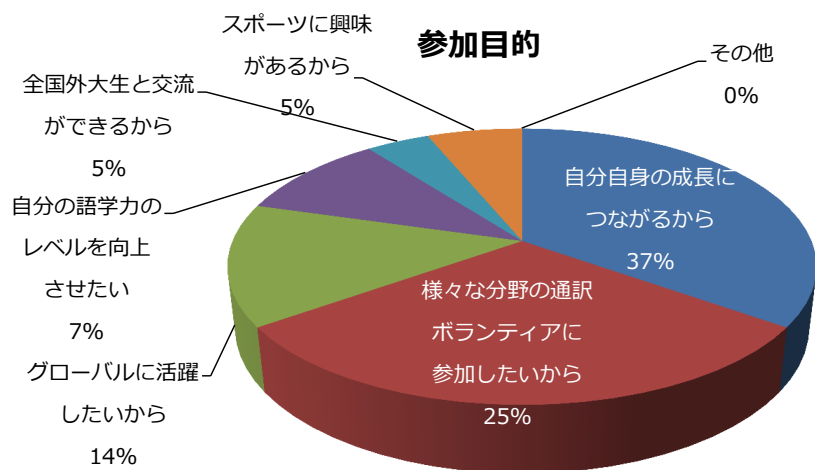
2. 学生の参加動機

2-1 参加目的

単位：人

参加目的	回答数
自分自身の成長につながるから	117
様々な分野の通訳ボランティアに参加したいから	102
グローバルに活躍したいから	48
自分の語学力のレベルを向上させたい	34
全国の外大生と交流ができるから	14
スポーツに興味があるから	21
その他	0

回答者数：336人

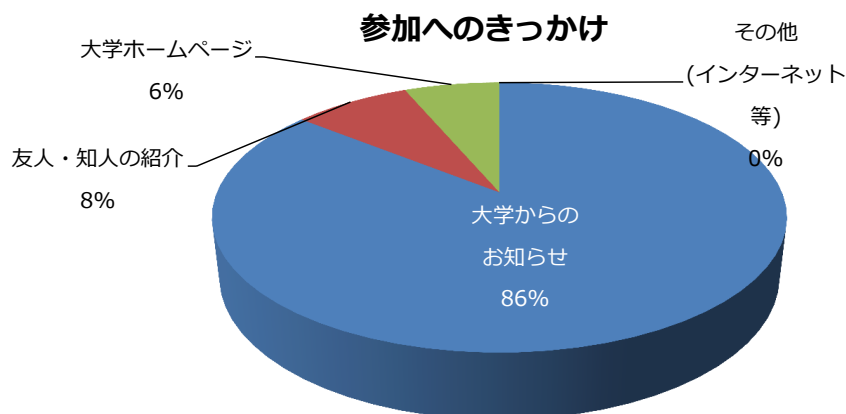


2-2 参加へのきっかけ

単位：人

参加へのきっかけ	回答数
大学からのお知らせ	294
友人・知人の紹介	27
大学ホームページ	22
新聞記事	0
その他（インターネット等）	0

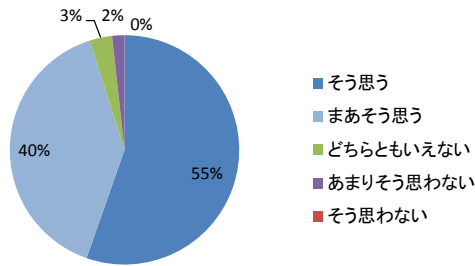
回答数：343人



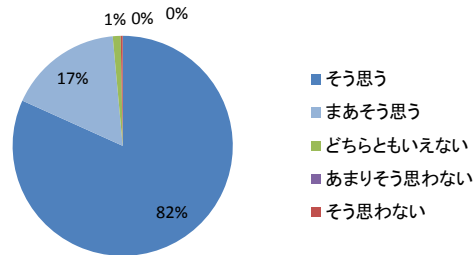
3. 参加後の自己評価 — アンケートによる集計（単位：人）

回答者数：345人

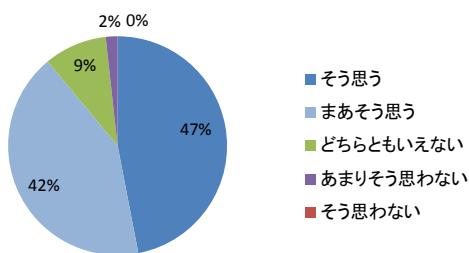
1. セミナーを受講してグローバル人材とは何か
そのために何をすべきかが明確になった



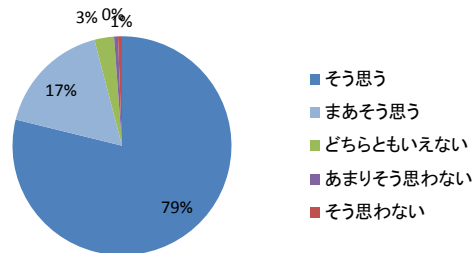
2. 語学力とコミュニケーション力の
必要性ついて学ぶことができた



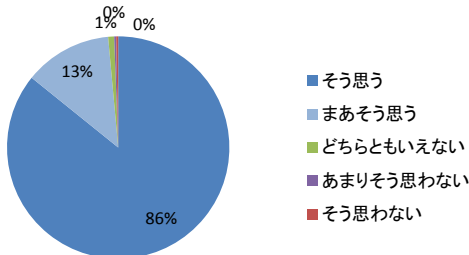
3. スポーツを取り巻く多様な分野や
専門知識の理解が深まった



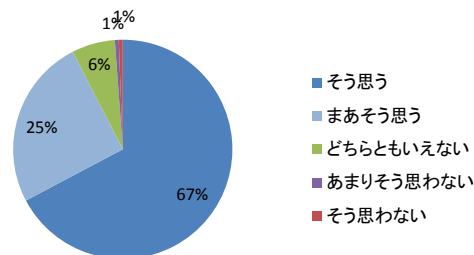
4. 参加する前より語学を学ぶ意義と
学習意欲が高まった



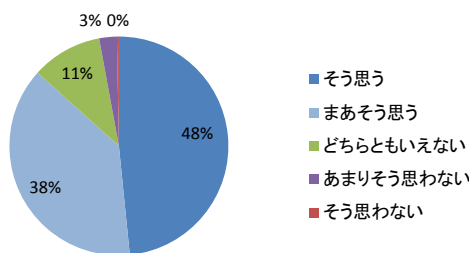
5. 今後、通訳ボランティア実践や様々な活
動に今より積極的にチャレンジしてみたい



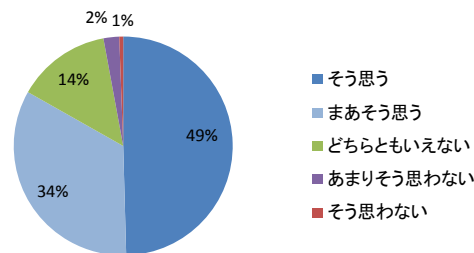
6. 受講前よりスポーツを通じて
異文化・国際交流に興味が高まった



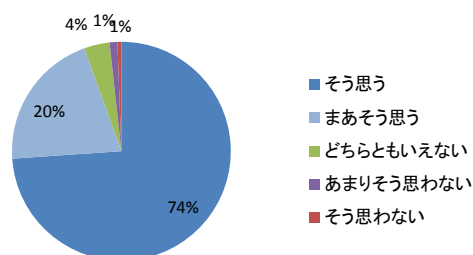
7. 日本人としてのアイデンティティについ
て考えるようになった



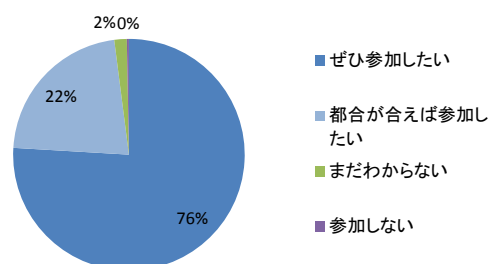
8. 自分の興味・関心がある分野に気づき、
新たな自分を発見した



9. このセミナーを受講して満足している



10. 将来、東京2020オリンピックパラリンピック競技大会に、通訳ボランティアとして関わりたいか？



11. 『このセミナーを通してのご感想やご要望、ご質問、運営についてお気づきの点等ご記入ください。』への回答内容

回答内容	回答件数
貴重な体験・時間を過ごせた、とても充実した4日間だった、楽しかった	27
参加して良かった	26
もう少し実践的、具体的な通訳の方法を勉強したかった	24
通訳ボランティアに対する意欲や語学への学習意欲が高まった	19
他大学の学生と交流できてよかった	16
自分の将来や今後の取り組み方を考えるいい機会になった	13
知識が増えた	13
豪華な講師の方からお話を聞けて良かった	13
自分の将来や今後の取り組み方を考えるいい機会になった	8
成長することができた、良い刺激になった	7
自分にとって良い経験ができたと思う	7
自分を見直す、向き合える、いいきっかけになった	6
興味の幅が広がった	6
5日間にわけて授業時間をもっと分散しても良かったと思う	5
食神だけでなく、ラパスも営業して欲しい	5
また参加したい	5
通訳ボランティアに参加したいという気持ちが強くなった	5
他大学の学生と交流が少なかった	4
通訳ボランティアをする上での大切な部分を学ぶことができた	4
時間が長かった	3
通訳ボランティアとして参加する際、今回セミナーで学んだことを活かしたい	3
日本について学べてよかった	2
自分にとってとてもためになるセミナーだった	2
全講義においてスライドを印刷した資料の配布してほしい	1
異文化への知識が深まった	1
地域言語の授業は少人数でよかった	1
体を動かしたりできるように、座学がもう少し少ないといい	1
語学学習を増やしてほしい	1
それぞれ講師の皆さんの職業についてもっと詳しく聞きたかった	1
幅広く活躍の場があることに驚いた	1
グローバル人材や言語習得についてなどいろいろと考える機会になった	1

※上記「回答内容」に当てはまる回答を「回答件数」としてカウント。

回答件数合計：231件

4. 各講義内容について

9/5(火)	基調講演
講演者	参議院自由民主党議員会長 (公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 理事 (公財) 日本オリンピック委員会 副会長 橋本 聖子



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆橋本聖子さんは、腎臓病にかかったり、肺活量がとても減ってしまったり、呼吸器官の影響で深呼吸ができなかったりとスポーツ選手としてはかなりのハンデがあった事実にはとても驚きました。それに関わらず、自分に限界を作らず自分を信じて頑張り続けて7回もオリンピックに出場して活躍されたのは本当にすごいと思いました。わたしも自分自身の身に何か不利な条件が現れても、そこで諦めてしまうのではなくて、夢や目標が叶うまでひたむきに努力し続けようと思いました。(名古屋外国語大学・1年)
- ◆政府の視点からの今後のスポーツ政策ビジョンについて講演をして頂いた。主に東京オリンピックに向けて現時点でどのような準備をしているかなどの内容で、東京オリンピックをはじめとする、日本で開催される国際イベントにおけるボランティアスタッフの重要性などについての理解が深まった。ヨーロッパであればアルファベットが用いられており、言語はラテン語起源ということもあり外国人同士でも比較的意図疎通がしやすいが、日本語は極めて特殊な言語なので通訳者の存在がより重要になると思った。アスリートとしての橋本先生の経歴にはただただ脱帽だった。(東京外国語大学・4年)
- ◆参議院議員自由民主党の橋本聖子議員会長は、かつてスピードスケートと自転車競技という二つの競技において、冬季・夏季オリンピック共に活躍しメダルを獲得するなど、多くの好成績を残した、素晴らしい選手である。しかしながら、彼女は幼少期に数々の難病と闘い、波乱の人生を歩んできた。現役引退後も、スポーツ連盟や協会等の代表を務め、現在は政治家として活躍されている。橋本議員は講義にて、自身がオリンピックに参加した当時に振り返り、英語によって意思疎通ができない相手ともコミュニケーションがとれるよう、将来通訳ボランティアとして活躍する我々学生に向け、外国語が話せない私たちの助けになってほしいという激励の言葉を述べられた。(長崎外国語大学・1年)

9/5(火)

スポーツ文化・教養①

講師

筑波大学体育専門学群長/教授
東京2020オリンピック・パラリンピック組織委員会参与
真田 久



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆この授業を受ける前までは、古代オリンピックについての知識など全くなかったが、知ることで現代のオリンピックと関連している点が見えてきて、とても面白かった。特に古代オリンピックでは、吹奏競技や芸術競技があったという点にはとても驚いた。オリンピックと聞くとスポーツのイメージが強いが、舞踊や絵、音楽を大切にするという精神も大切にしなければならないと感じた。また、その精神をこれからも受け継いでいくことが必要だとも感じた。(神田外語大学・1年)

- ◆オリンピック・パラリンピックの「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」という3つのコンセプトが良くわかりました。特に、様々な国からいろんな年齢、性別の人が集まるオリンピック・パラリンピックでは多様性や調和を間近で、しかも日本で学べる良い機会を得られるので絶対に通訳ボランティアとして参加しようと思いました。(京都外国語大学・1年)

- ◆この講義では、スポーツが持つ力とそれによって広がっていく可能性について学ぶことができました。例えば、「する・観る・支える」ことによって世界中の誰もがスポーツに携わり輝くことができるということや、多くの人々がスポーツに携わることによってスポーツ自体の価値を高められることです。中でも一番感銘を受けたことは、「被災者の心の支援」としてのスポーツです。被災地で、または被災した人々が参加することによって被災地の復興や、被災者自ら体を動かし、支え支えられることで被災者の人々の心の傷を癒すことができるというのはスポーツだけが持つ特別な力なのではないかと思いました。日本でも東北や九州で大規模な地震や洪水が起り、人々は苦しい時間を過ごしてきたと思いますが、東京オリンピックを通して、上で述べたようなスポーツならではの力で人々をもう一度元気付けられたらと思います。(関西外国語大学・3年)

講師

神田外語大学体育・スポーツセンター講師
 スポーツ通訳ボランティア推進室長
朴 ジョンヨン



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆朴先生の授業はとて熱意があつて、これから自分の目標に向かって進んでいこうと思うことができた。Change time, Change place, Change futureという言葉通り、少しいつもと違う環境に飛び込み、新しいことにチャレンジしてみることで予想していなかった未来を切り開くことができると思った。また、自分で考えて行動することができるグローバル人材になろうと思う。(東京外国語大学・2年)

- ◆この講義では通訳ボランティアはもちろん、世界中で活躍するためのグローバル人材の要素について学んだ。まずグローバル人材になるために必要な要素は、世界中どこに行っても自分のやりたいことができることを知り、また人材には4つの種類があることも知った。通訳ボランティアだけでなく多言語を学ぶ自分にとってグローバル人材とは憧れる部分があるため、通訳ボランティアを行うまでに指示されなくても自分で考えて自分で行動をする人材になるために、2次元のインターナショナルリズムでなく、3次元であるグローバルリズムを持った人材を目指したい。そのためにこれからの時間で立場・考え・時間を変えて、これからの未来を変えられるようにしていきたい。(長崎外国語大学・1年)

- ◆「グローバル人材とは何か」について、改めて理解を深めることができました。今やどこでも「グローバル」という言葉を目にするようになりましたが、グローバル人材とは何かという問いに答えられる学生は少ないと思います。朴先生の講演を聞いて感じたことは、グローバル人材になるためには、何事にも積極性が大事だということです。自分のやりたいことをやってみる、自分の強みを発見する、新しい言語を学ぶ、異文化を受け入れることなど、全てに共通するのが、やってみよう、学ぼうという積極性だと思います。人生に困難は付き物ですが、そんな苦しい環境も逆境と捉え、前向きに取り組んでいける人間になりたいです。(神田外語大学・4年)

- ◆まず個人的な感想として、朴先生の講義はとて胸に響く講義でした。自分の中であまり指摘されたくない心の弱さや弛んだ部分を直接的に指摘されているような気持ちになり、このまま普通に大学4年間を終えてしまてはいけないと緊張感を持たせていただきました。朴先生が仰っていた「学生時代に求められる資質」という項目の中で、自分のやりたいことをやる・自分の強みとは何かを理解することというものがありましたが、私自身もうすぐ就職活動が始まるのでもうそろそろのんびりしている場合ではないと強く感じました。グローバル"ジンザイ"という言葉における異なる漢字がそれぞれ意味するもののお話とても興味深いものであり、朴先生が教えてくださった、自分で考えて自分でやり遂げるグローバル"人財"になることができるように小さなことからコツコツと努力を重ねていきたいと思いました。(関西外国語大学・2年)

講師

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科准教授
 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンス戦略部アドバイザー
 アジア工科大学院院招聘准教授
神武 直彦



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆成功した人とは、何度も失敗をしてきているということが印象に残っています。行動したら考えるようになり、失敗したら改善をし、話をしたら理解するようになるという話を聞き、とても納得しました。特定の視点だけみていると、他が見えなくなると聞き、様々な視点から物事を見るのが大切であり、そこから新たな価値観、想像力が生まれてくるのだとわかりました。生徒たちが長期間覚えやすいと言われる、教え合うこと、実際にやってみること、ディスカッションをすることは自分自身も大切だと思っていたので、今後も意識しながら勉強をしていきたいと思いました。(名古屋外国語大学・4年)

◆神武先生の話で印象に残っているのはNASAかJAXAで働かれていた時のお話だ。このお話を聞いて言語学習がいかに大事かを再考させられた。研究者というコミュニケーションには疎いイメージがあるが、NASAやJAXAという環境ではチーム力が非常に需要となる。この際に、コミュニケーションツールである言語に堪能であることはプロジェクトなどの成功には欠かせない。この場合、通訳を介さず本人がその言語に堪能であることが重要であり、通訳者がどのような場面で必要とされるかということについても考えさせられた。(東京外国語大学・年)

◆神武先生の講義では未来メディアキャンプなどの例をもとにお話がありました。その中でマックス・ウェバーの「情熱なしになしうことは、すべて無価値である。」という言葉が紹介され、何かに取り組む時には自分なりの目的が必要でそこに情熱を与えて進めていかなければならないなと思いました。また、失敗をたくさんすることで学ぶことが世の中にはたくさんあることを知り、それに気づくためには、行動して考え、失敗をして改善し、話をして理解することが大切だと学ぶことができました。失敗を恐れずに少しずつ変わっていきたいです。(神田外語大学・1年)

◆今の自分には、マネジメントやシステムデザインの話は難しい部分はあったが、様々な人が集まって意見を交換しながら、一つの事をやり遂げることの楽しさを体験してみる事は、自分のためになると思った。今の自分は、人と違う意見を持つ力がないため、まだこういったプロジェクトに参加することには向いていないが、これからの大学生活で、様々なことを知っていく上で、自分の意見を持てる人間になっていきたい。そして、機会があれば、このようなイベントにも参加したい。(京都外国語大学・1年)

講師

アジアラグビー会長
 (公財)ラグビーワールドカップ2019組織委員会事務総長特別補佐
徳増 浩司



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆2019年に開催されるラグビーW杯でも、私たちが、通訳ボランティアとして関わるチャンスがある。ラグビーW杯は、全国12都市で開催されるため、中心都市のみならず、郊外にも外国の方々が訪れる。そのため、ツーリズムと密接に関係しており、とても重要な大会となる。大会全体のボランティアの数は、1万人にもおよび、来訪者の数は45万人と言われている。関西でも行われるので、ぜひ参加したいと思う。(京都外国語大学・1年)

◆正直、今までラグビーというスポーツについてあまり良く知りませんでした。しかしこの講義を通し、ラグビーワールドカップが日本で開催されるという素晴らしい、や、このワールドカップにより世界にラグビーは勿論、日本を知って貰えるとても大きな貴重な機会であるという事を知ることが出来ました。そしてラグビーの世界中の選手、サポーター等の皆さんに、開催地が日本でよかったと思って貰いたいです。ラグビーワールドカップで、ボランティア活動がしてみたい！と強く思いました。(神田外語大学・1年)

◆私は元々ラグビーに興味はありませんでしたが、今回の講演を通してラグビーに対する興味関心やラグビーの大会のボランティアとして関わってみたいと思いました。講演のなかでキーワードとなる数字ははじめて知ることばかりでした。通訳ボランティアと聞くと浮かぶのはオリンピックだけでしたが、日本で行われるラグビーの大会にも200万人の観客や45万人の外国人来訪者が訪れる予想を聞いて、ボランティアはオリンピックだけでなく、他のスポーツの大会においてもかかせない存在であると改めて考えさせられました。(長崎外国語大学・1年)

◆これまではラグビーに関する知識はなかったのですが、2019年にラグビーワールドカップが日本で開催されることがいかに重要か知ることができました。アジアで開催する初めてのラグビーワールドカップということで、何としてでも成功させたいという思いがラグビー関係者の方々にはあると思いますし、日本にとってもこのワールドカップの結果次第で、今後様々なスポーツイベントの招致ができるか否かが決まる大きなイベントだと思います。このワールドカップが成功するように、私は1万分の1のボランティアとして活躍したいです。(名古屋外国語大学・4年)

9/6(水)	日本文化の理解
講師	<p>1971年 裏千家入門 1987年 茶名拝受 2011年 教授拝受 神田外語大学茶道部指導 菊池 考子</p>
	<p>幼少より、端唄三味線を母に習い、高校在学中に長唄三味線を東音高橋尚子師に師事 東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業、同大学院修士課程修了 神田外語大学ミレニアムハウスでの三味線講座や日本文化講座の講師を務める ロシア、中国での海外公演や各演奏会、NHKラジオ放送に出演 東音植松美名</p>



参加者課題『講義レポート』より	※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります
<p>◆日本の伝統文化を目の前で見せてもらうことができうれしかったです。世界の人々と関わりをもっていく前提として、自国を知り、自国を愛することが大切なのだと感じました。日本の文化や伝統をしっかりと伝えることができる人間になりたいと思いました。（長崎外国語大学・2年）</p>	
<p>◆自分の知らない日本文化を学べた非常に楽しい時間でした。三味線やお茶の立て方を教えていただき、こんなにも奥が深くて、まだまだ自分がもっと多くの日本文化を知ろうと感じることができました。さらに習っていた書道を外国人の方に伝え日本文化を知っていただくために何か行動しようとも考えることができました。（神田外語大学・2年）</p>	
<p>◆私は、三味線の生演奏を聴くのが初めてだったため、とても良い貴重な体験をさせていただきました。日本人であれば日本の奥深い文化まで理解しなければなりませんし、これからも歌舞伎の舞台など生で文化に触れ合うような場所に訪れたいと思いました。そして、茶道は個人的に七年ほどお稽古していたこともあり、お稽古披露はとても身近に感じました。三味線、茶道ともに古くからの日本の文化を守り抜かれてきた講師の方々に尊敬の意を表するとともに、次は私達が受け継がなければならないと感じ、改めて日本文化を詳しく学びたく思いました。（京都外国語大学・1年）</p>	
<p>◆日本人ですら、外国人に伝統的な日本文化を紹介することが難しく感じることもある。漫画やアニメなどのいわゆるポップカルチャーについてはうまく説明でき、会話も広がるが、日本の伝統的な文化に関しては体験や知識が乏しく、日本語で紹介することさえ容易ではない。日本の文化を大切にし、継承していくためにも、若い世代の私たちが実際に体験して、語り継いでいく必要があると強く感じた。（関西外国語大学・4年）</p>	

9/6(水) スポーツ通訳ボランティアとグローバル人材			
講師	神田外語大学体育・スポーツセンター講師 スポーツ通訳ボランティア推進室長 朴 ジョンヨン		
発表 (学生)	<table border="1"> <tr> <td> 神田外語大学 国際コミュニケーション学科3年 第2回通訳ボランティア育成セミナー修了者 2016年 卓球ジャパンオープン荻村杯通訳ボランティア 2016年 日韓青少年夏季スポーツ交流通訳ボランティア 2017年 札幌アジア冬季大会通訳ボランティア 眞壁 ひとみ </td> <td> 神田外語大学 英米語学科2年 第3回通訳ボランティア育成セミナー修了者 2017年 札幌冬季アジア札幌大会通訳ボランティア 本郷 素直 </td> </tr> </table>	神田外語大学 国際コミュニケーション学科3年 第2回通訳ボランティア育成セミナー修了者 2016年 卓球ジャパンオープン荻村杯通訳ボランティア 2016年 日韓青少年夏季スポーツ交流通訳ボランティア 2017年 札幌アジア冬季大会通訳ボランティア 眞壁 ひとみ	神田外語大学 英米語学科2年 第3回通訳ボランティア育成セミナー修了者 2017年 札幌冬季アジア札幌大会通訳ボランティア 本郷 素直
神田外語大学 国際コミュニケーション学科3年 第2回通訳ボランティア育成セミナー修了者 2016年 卓球ジャパンオープン荻村杯通訳ボランティア 2016年 日韓青少年夏季スポーツ交流通訳ボランティア 2017年 札幌アジア冬季大会通訳ボランティア 眞壁 ひとみ	神田外語大学 英米語学科2年 第3回通訳ボランティア育成セミナー修了者 2017年 札幌冬季アジア札幌大会通訳ボランティア 本郷 素直		



参加者課題『講義レポート』より ※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆朴先生からの熱いメッセージに心を動かされ、自分をもっと人間として変わっていかねばならないと強く思いました。そして、実際に通訳ボランティアに参加された眞壁さんと本郷さんのお話を聞き、ボランティアをするにあたっての心構えとコミュニケーション能力の必要性や、自ら考え動くことの大切さを学びました。さらに、通訳ボランティアをする際は、日本人の感覚でいてはいけないということも学びました。時間を厳守することが当たり前である私たち日本人にとってみれば、海外の人々の時間にルーズな感覚は理解しがたいものがあります。しかし、そういった習慣の違いも偏見なく認め合える、寛容な心が必要であると感じました。相手の文化を理解し受け入れるという異文化理解の大切さに改めて気づくことができました。(神田外語大学・4年)

◆朴講師のお話に出てくる一つ一つのフレーズが私の脳裏に焼き付くほど、印象に残った授業でした。当たり前の殻を破るのは自分であり、その殻を破らなければ新しい世界を新しい視野でみることはできないのだと改めて考え直しました。世界で著名な有名人の方は、世間の人々とは並外れた努力と世界観をもっていました。このように私も将来での人生選択の際、恐れず、当たり前の観念を変えられるような人間になりたいと思いました。そして、神田外語大の学生の方々のお話は、実際に通訳に参加しないとわからないような貴重な体験談、教訓、成功談、失敗談などこれからの私の通訳参加に参考になるようなことがいっぱい勉強になりました。(京都外国語大学・1年)

◆この講演で特に印象に残ったのは、神田外国語大学の先輩二人の経験談でした。私は将来、通訳ボランティアとしてなにかしら関わっていきたくらいなと考えています。しかし、通訳ボランティアをする上で、ただ言語が話せれば良いというわけではないとわかりました。文化の違い、宗教の違いなどをしっかりと理解し柔軟に対応していかなければならない。また、さまざまな状況においてすばやい決断や柔軟な考えを持つことも大切だと感じました。特に自分の限界を決めつけないという言葉は、これからの自分の成長にとって大事なことだなと思いました。もし通訳ボランティアをやる機会があれば、相手の国を尊重し積極的に動いていこうと思います。(長崎外国語大学・1年)

9/6(水)	ホスピタリティマインド
講師	筑波大学附属高校を経て慶應義塾大学法学部法律学科卒業 日本航空客室乗務員として30年に渡り国際線・国内線を乗務 18,525時間を乗務して2013年7月に退社 同年11月Global Manner Springs設立 2014年より筑波大学にて「グローバルマナー概論」講義 2015年4月同大学客員教授就任 江上 いずみ



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆江上先生は30年間客室乗務員として勤めていらして、最後のアナウンスにはとても感動しました。CAという仕事は様々なお客様と関わるお仕事であり、その分理不尽なことたくさん言われてきたと思うのですが、どんな時も「おもてなしの心」を忘れずに取り組まれていたことを知り、一人の人間として本当に素晴らしい方だなと思いました。この講義は一生忘れません。（名古屋外国語大学・4年）

◆「その人にとっての一番が、他の人の一番とは限らない。」握手の例を挙げて説明していただいた、日本人に対するおもてなしと、外国人に対するおもてなしの違いはすごく難しいなと感じましたが、それをきちんと使い分けられるような人になりたいと思いました。名前を呼ぶことなど、通訳ボランティアとして活躍するときに限らず、日常の人とのコミュニケーションでも生かすことのできる内容が多く、非常に興味深かったです。最後の2020年東京オリンピックパラリンピック行きのアナウンスは本当に嬉しかったです。最高の授業でした。（神田外国語大学・1年）

◆日本の文化「おもてなしの心」を外国人に伝えるひとつの場として、通訳ボランティアがある。好感度を高める方法として大事になってくるのが、第一印象である。第一印象は視覚と聴覚で決まり、5原則として、表情・態度・身だしなみ・言葉遣い・挨拶がある。江上先生の講義で、今までアルバイトなどで使っていた何気ない一言を変えるだけで、印象が違うことがわかった。また、通訳をする上で、海外のマナーに触れる機会がある。日本のマナーと違う場合に対応できるように、異文化も理解することが大切だ。人は第一印象がとても大事であり、通訳においても、見た目、言葉遣いを意識することで、相手へのおもてなしの心が伝わりやすくなるので、マナーの基本も知るべきだと学んだ。（京都外国語大学・1年）

◆1番心に残る講義でした。第一印象は視覚、聴覚でほとんどが決まり、言葉遣いや表情も気をつけるべきだと改めて分かり、「笑顔は1円もかからないおしゃれ」という先生の言葉は印象に残りました。少しずつでもホスピタリティの心を身に付けられるように普段の生活から意識していこうと思いました。（関西外国語大学・2年）

9/6(水)

パラスポーツ体験講座

講師

一般社団法人日本ゴールボール協会理事
女子強化スタッフ
2004年 アテネパラリンピック女子日本代表監督
2008年 北京パラリンピック女子日本代表アシスタント コーチ
増田 徹



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆今までゴールゲームという競技は聞いたことも見たこともありませんでした。映像を見てみて、簡単そうかなと思っていたけど、実際に行ってみるととても難しく、目が見える状態でも上手くボールを転がせなかったりしました。目を隠して行うと本当に訳が分からなくなるととても怖かったです。ゴールゲームの選手はとてもすごいなと思いました。また目が見えない分、賢さとチームワーク力がとても大事だと感じました。他にもわたしの知らないパラスポーツはたくさんあると思うので、もっと勉強して知識を増やしたいです。(名古屋外国語大学・1年)

◆ゴールボールを実際に体験してみた。人は得る情報の80%を視覚に依存しているらしい。実際目隠しをしてゴールボールをプレイしたら、かなり集中してもなかなかボールの位置を判断するのが難しかった。視覚に障害のある人は情報源を聴覚に依存していると思うが、交通量の多い場所など、騒音の多い場所ではかなりの困難を強いられるだろうと思った。パラスポーツはそのような障害の現状を広く周知するためにも良い手段だろうと思った。(東京外国語大学・4年)

◆座学だけでなく実際にゴールボールを体験することで、自分が普段当たり前に行っているスポーツが一つの身体機能が不自由になることで簡単にできなくなってしまう難しさを知ることが出来た。しかし、その中でも練習を重ねパラリンピックに出るゴールボールの選手の話聞き、私も諦めずに難しいと思ったことも頑張ろうと思うことが出来た。(神田外語大学・4年)

◆パラリンピックというものがあるのは知っていましたが、実際にテレビでみて応援するということはしたことがありませんでした。なのでどういったスポーツがあるのか、身体障害度に合わせて対戦相手が考えられていることなど、パラリンピックについて少し知ることができました。次にパラスポーツである、ゴールボールを体験しました。視覚障害者である選手のスポーツということで、実際に目隠しをしてボールを投げましたが、想像していたより怖く、仲間とのコミュニケーションや聴覚も使うことがわかり、とてもいい経験ができました。(京都外国語大学・1年)

講師

関西外国語大学短期大学部卒業後、独学で8カ国語を習得
 外資系金融機関で12年間勤務した後、2014年より
 多言語学習サロン「マルチリンガルクラブ」を運営
 2016 リオオリンピック大会通訳ボランティア経験者
新条 正恵



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

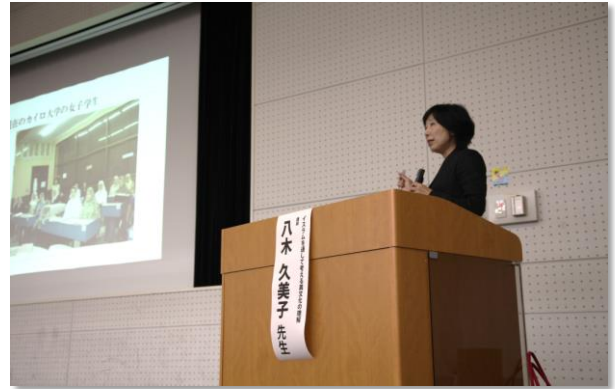
- ◆多言語を習得されているということで、いったいどんな学習をしたら習得ができるのだろうかとても興味を持っていた講義でしたが、5W1Hで明確なゴールを定めることや、得意なVAKで学ぶこと、好きな事と語学習得を結び付けることなどの方法を教えていただきました。また、そこで決めて放置するのではなくすぐやると言っておられたことが印象に残り、実際に私も講義の中でやると決めたことをその日のうちから実行しています。(関西外国語大学・4年)
- ◆具体的な未来を想像し、5W1Hを使って明確なゴールを設定する。さらに第二外国語や得意なVAKを使い、好きなことと語学習得を関連付けることにより語学習得を加速させることができることを学んだ。私の場合は聴覚を使うことでより早く学べることをVAKテストで再確認し、音楽を聴いたり、映画を見て耳から学んでいた方法は間違っていたことを知れて、自信になった。オリンピックを通訳ボランティアとしてだけでなく色々な角度からサポートしていきたい。(京都外国語大学・1年)
- ◆この講義では多言語を学ぶために、インプットをしてすぐにアウトプットをすることが成長する近道であることを学んだ。通訳ボランティアを行うためには多言語を扱うことが必須であるが、目標を立てるのはもちろん、個人によって視覚・聴覚・体感覚で学び方が異なるのを知った。アウトプットをするときに大切なことは、やみくもに進むのではなく、ゴールを決めるのが大切と知った。また新条正恵先生はリオオリンピックでの通訳ボランティアを経験されていて、選手の通訳だけでなく関係者のサポートも行うのも初めて知った。この講義を通して自分は英語を専攻として学んでいるが、聴覚を駆使して、通訳ボランティアだけでなく、卒業後に国際的に活躍できるような人材になれるように日々学んでいきたい。(長崎外国語大学・1年)

9/7(木)

イスラムを通して考える異文化の理解

講師

東京外国語大学大学院教授（イスラム研究）
言語文化学部長
マサチューセッツ州ハーヴァード大学より博士号（Study of Religion）
八木 久美子



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆イスラム教は世界でも多く布教されていることが改めて分かりました。私は、イスラム教徒は豚肉を食べてはいけないなど主なことしか知りませんでした。しかし、イスラム教にも様々あり、服装も地域によって異なっていました。食に関する規範で、私が驚いたことは、断食についてです。その期間は何も口にしてはいけないと思っていましたが、実は日没後はお祝いを毎日のようにすると聞き、とても驚きました。宗教について勉強することは、外国人来訪者が来た際にとっても重要だと思うので、大切だと思いました。（名古屋外国語大学・4年）

◆食の規範を持つことはイスラム教徒特有の文化ではなく、私達日本人が虫を食べる習慣がないということと同じということに気付かされた。また、食の規範を破り、誤って食べてしまった場合でも知らなかったならば罪に問われないという点からイスラムは戒律に厳しいというイメージを改めることができた。このように、正しい知識を得ることで、異なる価値観の人を理解したり、偏見を持たずに接することができるようになると実感した。（東京外国語大学・1年）

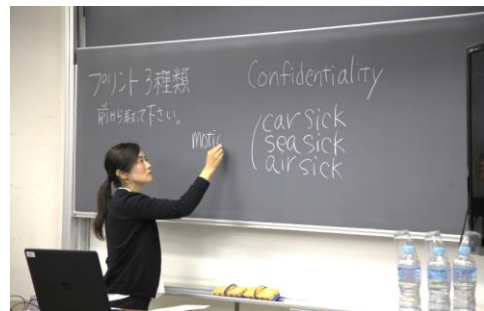
◆世界には様々な文化の違いがある。顔を隠すニカーブ以外にも食の文化の違いについて多く取り上げられていたので、自分にとってとても興味深かった。断食、食物禁忌など、聞いたことはあっても詳しく知らなかったものが多くあった。講義後に食品がイスラムの規範に適っていることを認証するハラール認証というマークを食神で実際に見たので、意外にも自分の身近に文化の違いがあることに気づいた。日本から見た世界の異文化、世界から見た日本の文化、違う文化を持つという共通点があり、他の国に限らず日本も独自の食文化を持っているのだと改めて感じた。（神田外語大学・2年）

9/7(木)		比較文化論（受講言語：英語）
講師	<p>神田外語大学英米語学科 准教授 東京外国語大学大学院で博士号（学術）取得 専門は社会言語学 矢頭 典枝</p>	<p>神田外語大学英米語学科 教授 Former Assistant Professor at Graduate School of Translation and Interpretation, Monterey Institute of International Studies 小坂 貴志</p>



参加者課題『講義レポート』より	※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります
<p>◆矢頭 典枝先生：英語モジュールを利用して様々な英語を学びました。アメリカ英語とイギリス英語の違いは有名ですが、オーストラリア英語、アイルランド英語、カナダ英語、ニュージーランド英語にもそれぞれ特徴がありました。私たちが英語として今まで習ってきたのは、アメリカ英語です。これは、アメリカの文化を学んできたと言っていいでしょう。これによって文化を学ぶことの基盤を作り上げてきた私たちは、他文化を受け入れる姿勢が身につけているはずで、そのため、これから様々な国の言葉の特徴や文化を学んでいき、より深い文化理解をしていきたいと思えます。（名古屋外国語大学・1年）</p> <p>◆矢頭 典枝先生：英語モジュールを用いて英語の発音の違いを学んだ。中学校のときにニュージーランドに渡航した経験があるが、授業で習った英語と異なり、聞き取りにくかったり、発音しても意思疎通することが出来なかったりした経験がある。またアメリカ英語やイギリス英語のような違いも詳しく学べた。ただ単に英語とまとめたとしても、通訳では自分が発音する英語が相手に通じないこともあると思うので、各国の違いを知ることが通訳ボランティアを行うためには重要なことだと知った。さらに発音だけでなくスペルも異なるのも知った。この講義を通して通訳ボランティアとして活躍するために幅広い英語を用いる必要があることを実感したため、日常的に英語モジュールを用いて国際的に通じる英語を身につけられるようにしたい。（長崎外国語大学・1年）</p> <p>◆小坂 貴志先生：最初に日米の違いである敬語の有無や、主語の有無などを学びました。そしてコミュニケーションにはコアとして言葉がありサブにコンテキストがあることを知りました。ただ会話をすただけでなく、実際に自己紹介を通訳する時間をいただきましたが、とても難しかったのを覚えています。もっと流暢に目標言語を使用していきたいです。（神田外語大学・2年）</p> <p>◆小坂 貴志先生：英語と日本語を比較して通訳について学んだ。英語は言葉に多く頼っていて、日本語は主語なしでも通じたりとそれぞれの特徴を理解した上で通訳することが大切だと学んだ。通訳における会話はその場でルールが決まり、話題もその場で決まるため自発性とコミュニケーション能力が重要だ。会話を分析し、頼ってもらえる通訳者になりたいとも思った。（京都外国語大学・1年）</p>	

講師	Albertus Magnus College卒業, お茶の水内科 理学療法士, Tokyo Medical English and Japanese for Healthcare Professionals主催 伊藤 博子	米国Wheaton College学士号 University of Southern California 修士号 日英通訳・翻訳・英会話講師・鍼灸マッサージ 師国家資格及び教員資格 大饗 里香
	NHK衛星スポーツでのアメリカ3大スポーツ中継番組や CNN ワールドスポーツでの翻訳・ボイスオーバー。 2004年~2009年には、千葉ロッテマリーンズ球団で ボビー・バレンタイン監督専属通訳 中曽根 俊	神田外語大学 英米語学科 通訳・翻訳課程講師 民間通訳養成スクール顧問 オーストラリア・クィーンズランド大学大学院 修士号 (英日通訳・翻訳) 曾根 和子



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆伊藤 博子先生：通訳ボランティアをする際に身につけておかなければならない医療面での知識、心構えを学ぶことができました。"スポーツ"ということから、連想的に"怪我"ということしか想像できていなかったが、実際は選手やスタッフの"病気"の方が多いと聞いて少し驚いた。また、医療現場の通訳では多くの知識が必要になるが、それと共に多くの専門用語を英語で覚えなければならない。医者の発言を正しくかつわかりやすく解釈し、翻訳して患者に伝えることは非常に難しいことではあるが、やりがいがあるのではないかと思います。多くの需要がある医療現場の通訳も一度は経験してみたい。(京都外国語大学・1年)

◆大饗 里香先生：通訳の現場で役立つ医療知識と医療英語、そしてそれに関連した会話文を学びました。実際に医療現場で通訳する時に大切である通訳士の基本的な立ち振る舞い方はもちろんのこと、体が「痛い」と言っても様々な種類の痛みがあり、ヒリヒリする痛みや鈍い痛み、焼けるような痛みなどの英語での表現の仕方や、問診の仕方まで幅広く教えて頂きました。アスリートにとって怪我は選手生命がかかった一大事であるため、通訳士の能力でその選手が今後どうなるか決まってしまう。なので、通訳士は下手に代弁したりせずそのまま話し、医療現場において自分ができることと出来ないことの境界線をハッキリさせることをわきまえた上で選手を助けてあげられるような通訳士になることが重要だと学びました。(関西外国語大学・3年)

◆中曽根 俊先生：通訳において「自分だったらどう訳すか」ということの重要性を中心に講義を聞いた。今まで相手の言うことに対して忠実に伝えることが重要だと考えていたが、分かりやすく、適切で簡潔な言葉で伝える事が重要なのだと言う事を学ぶ事が出来た。(神田外語大学・1年)

◆曾根 和子先生：実際に逐次通訳の練習をしました。英語の音声が出てそれを日本語訳するのはもちろん大変でしたが、それ以上に英語の音声が出て、またそれを繰り返すということが簡単なようで、長文になればなるほど非常に難しかったです。通訳は相当なスキルがないとスムーズにできないと思うので、日頃からコツコツとトレーニングが必要だと痛感しました。(名古屋外国語大学・4年)

9/7(木)

比較文化論（受講言語：中国語）

講師

神田外語大学アジア言語学科中国語専攻 教授
東京外国語大学大学院 地域研究科アジア・太平洋コース修了
専門は地域研究（中国）・比較文化研究
花澤 聖子



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆先生のお話を聞いて、自分の留学経験で感じた出来事と結びつくことが多く、とても面白い内容でした。ただ、中国人だからこう、とか日本人だからこう、という固定概念は持つべきでないと思いました。文化とはいえ、人それぞれな部分があるので、文化は集団の全員に当てはまるべきではないという先生のお話は確かだなと感じました。（関西外国語大学・3年）
- ◆摩擦が生じやすい日中の文化の違いを理解することができた。日本では感謝をする時「ありがとう」というが、中国では親密な仲で「ありがとう」と言ったら逆に距離を感じることを初めて知った。中国の人と話す前に中国と日本の文化の違いを知っておくことが必要なのかなと思った。（神田外語大学・1年）
- ◆日本と中国の文化の違いについて学びました。私自身中国と日本のハーフなのでお互いの文化を理解していたつもりですが、今回講義を受けて、そうだったんだと思う事が多かったです。例えば、挨拶の仕方など。特に驚いたのは、ありがとうについてです。日本人は誰に対してもなにかしてくれたらありがとうと言いますが、中国の方は本当に仲が良い人にはあまりありがとうと言わないようです。しかし私はこれはとても良いなと思いました。本当に仲が良いからこそ気をつかわなくていいのはいいと思います。この講義で本当にこれから私が中国の方と接するさえにとっても役立つ講義でした。（京都外国語大学・1年）

9/7(木)

通訳・翻訳技法①② (受講言語：中国語)

講師

神田外語大学アジア言語学科中国語専攻 講師
 神奈川大学大学院中国言語文化専攻修了 博士 (文学)
 専門は音韻学・中国語の方言
山村 敏江

アジア言語学科中国語専攻 特任准教授
 中国 華東師範大学博士 (文学)
青野 英美



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆山村 敏江先生：中国の方言について学びました。中国には本当に方言が多くて驚きました。また一つ一つ全くと違っていいほど違う発音で本当に違う言語だと思いました。これから中国の方と関わる事にもどこ出身の方が聞いてみて方言を聞いてみたいと思いました。とても楽しい講義でした。(京都外国語大学・1年)

◆山村 敏江先生：中国語の方言に関しては、前から苦手意識を持っていて(多すぎるから)逃げていたのですが、いざ音声を聞いてみると、本当に多いなと思ったのはもちろんですが、逆に同じ中国語なのにここまで幅広いのなら、もっと色々な方言を知りたいと思うようになりました。もしもこれから自分が中国語に関わる通訳をするのであれば、必ず知っておかなければいけない知識を得ることのできた講座でした。(関西外国語大学・3年)

◆青野 英美先生：実際に翻訳作業を行ったことが印象的だった。他の外大生と日本語から中国語に翻訳し合う作業は実践的であった。また通訳技術を学んだ。中国語、日本語、英語では同じ文章であっても示す字数が異なる。その為、通訳する際は長さを調整することも大切だと学んだ。普段の中国語の授業とはまた異なり、このセミナーだからこそ体験できた貴重な時間であった。(神田外語大学・1年)

◆青野 英美先生：青野先生は中国出身の先生ということで、教室に入ってきたと同時に、「大家好(みなさんこんにちは)」と生徒に向かって言っていました。そして生徒たちは、私のようなネイティブの生徒もいたので、先生の声に続いて「老师好~(先生こんにちは)」と中国にいた時のように返事しました。とても懐かしい挨拶の仕方です。自国にいた時のことを思い出させられました。日本に来て9年目で、その日で初めて中国語の授業を受けました。本当に新鮮で楽しい授業になりました。(関西外国語大学・4年)

9/7(木)

比較文化論（受講言語：韓国語）

講師

神田外語大学体育・スポーツセンター講師
日韓スポーツ大会において韓国代表監督・選手団や記者会見通訳他
2007-2014在日大韓基督教船橋協会同時通訳歴任
朴 ジョンヨン



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆スポーツ文化を学びました。スポーツ文化の特性が5つあり、その中で学習性、今の世代から次の世代へ。これは大事なことだと思います。次の世代へ受け継ぐことでオリンピックも4年ごとに開催され、受け継がれる事にもっと良くなっていき、また、スポーツの幅も広がり世界の人々とのコミュニケーションが生まれる。とても素晴らしいことだと思いました。（長崎外国語大学・1年）

◆スポーツと文化が持つ特性について学習した。今までスポーツはすると観るだけだと思っていたが、支える、読む、着るといった多様性があることを知った。特にボランティアは支えるという点でスポーツと関わることができる新たな体験になる。語学はもちろんだが、専門的な知識や責任感、主体性、体調管理も必要になってくるということが分かった。（神田外国語大学・1年）

◆スポーツと文化が持つ5つの特性から始まり、ボランティアに求められる6つの要素などこの要素はどの先生方も言ってらっしゃったので、その通りなんだと改めて実感しました。そして私は一番感動したのが新大久保駅での韓国人の方が日本人の酔っ払いを助けて亡くなったという動画を見た時です。その頃は韓国と日本はあまり良い関係ではないのに、そして自分も死ぬかも知れないのに命をかけて人助けをしていて私はこういう勇気を持つ方がいるということを改めて実感し、私も人助けをすることから逃げてきていたのでこの動画を見てとても心が動かされました。朴先生の講義はどれもとてもよく毎回感動する、心が動かされる講義ばかりでした。（長崎外国語大学・1年）

9/7(木)

通訳・翻訳技法①② (受講言語：韓国語)

講師

神田外語大学アジア言語韓国語専攻 講師
2008年 高麗大学 (韓国) 韓国語教師育成課程 (日本地域) 修了
韓日字幕・吹き替え翻訳者。2016年神田外語大学字幕制作
チームにて翻訳した映画「探偵なふり」の監督を担当
本田 恵子

神田外語大学アジア言語韓国語専攻 講師
会議通訳
NHK BSワールドニュース通訳
孟 信美



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆本田 恵子先生：韓国ドラマなどで日本語翻訳などよく目にしていましたが、翻訳にもルールがあることなど知らなかったのが、改めてドラマを見てみると新鮮な気持ちになりました。また、実際に翻訳を体験させてもらって、自分たちで翻訳したシーンを見てみると感動しました。もっと翻訳をしてみたいです。(長崎外国語大学・1年)
- ◆本田 恵子先生：通訳翻訳技法を学びました。実際にドラマの一部を翻訳しました。私たちに身近であるドラマですが、字幕をつける上での注意点や大変さを少しながら実感しました。語彙はもちろんですが主人公やそれを取り巻く人間関係の深い理解と尺の兼ね合わせなど、同時に考えなければならないことが沢山ありました。今後もっと深く学びたい分野だと思いました。(神田外語大学・1年)
- ◆孟 信美先生：通訳ボランティアでよく使うフレーズの勉強や単語を学びました。まだまだ習っていない単語や文法もあり手こずる事が多く、先生が少し呆れていて自分の勉強不足さが実感しました。単語ではオリンピックでは必須の単語ばかりでこれは覚えないと通訳として成り立たないであろう単語ばかりでした。このような単語やフレーズは普段の生活では使う事がないので、知らないものばかりで新たな知識として身につける事が出来、とてもいい経験でした。少人数クラスという事で他の大学の方とも助け合いながら出来たので良かったです。(長崎外国語大学・1年)
- ◆孟 信美先生：これまで、通訳とは話されたことをそのまま訳す仕事だと捉えていた。しかし、分野や国によって大きく異なることを実感した。スポーツの分野では、スポーツ名や詳しい会場案内をする言語力と対応力が求められることが分かった。今回の講義では、関連単語や簡単な会話文を学習したが、ボランティア参加までに応用力をつけていきたい。(神田外語大学・4年)

9/7(木)		比較文化論（受講言語：スペイン語）
講師	神田外語大学 イベロアメリカ言語学科 スペイン語専攻 講師 専門はスペイン語言語学 修士（スペイン語）（マドリード自治大学） 松井 健吾	神田外語大学国際コミュニケーション学科IBC専攻 教授/ 副学長 メキシコ国立自治大学大学院修了 元HNKテレビ・ラジオ講師 柳沼 孝一郎



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆松井 健吾先生：スペインの多様な言語、そして「文化」という基本的な概念について学んだ。日本では琉球やアイヌの文化があるほかには、地域毎で方言があると聞いても同じ言葉を使っている。しかしスペインでは地域ごとに全く異なる言語を話しており、またカタルーニャやバスク地方などでは特に自らのことをスペイン人だとは思っていない人が多い。日本では自分のことを神奈川人や宮崎人などとらえている人は少ないと思うが、そのあたりがスペインと日本の大きな文化的違いなのだと思った。この内容は大学でずっと勉強していたので、良い復習となった。（東京外国語大学・2年）

- ◆松井 健吾先生：スペイン語について改めて学びました。地域によって異なるスペイン語を聞き、方言に興味を持ちました。グループワークでは文化について話し合いました。他大学の生徒と交流する機会でもあり、意見交換ができてよかったです。（関西外国語大学・2年）

- ◆柳沼 孝一郎先生：スペイン本国だけでなく、中南米のスペイン語圏までいたる広い視点の授業を受けることができ、改めてスペイン語圏の国の多様性を知ることができた。（神田外語大学・3年）

- ◆柳沼 孝一郎先生：とても面白く楽しく授業して下さる先生で、京都外大にも是非授業しに来て欲しいなと思いました。（京都外国語大学・4年）

9/7(木)		通訳・翻訳技法①② (受講言語：スペイン語)	
講師	神田外語大学イベロアメリカ言語学科 スペイン語専攻講師 英日、西日の字幕・吹き替え翻訳者 元フェロー・アカデミー講師 渡部 美貴	神田外語大学 イベロアメリカ学科 スペイン語専攻 准教授 専門は言語学、外国語教育 認知言語学 アルセニオ サンス リベーラ	



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆渡部 美貴先生：通訳のお仕事は以前から興味があったのですが、通訳と翻訳の違い、スペイン語翻訳ならではの注意点を教えていただきました。ただ訳だけでなく、その映像を見る人、その本を読む人の年齢、性別などの客層を考えながら適当な言葉で翻訳するということがとても印象に残っています。翻訳は訳すもので、極端に言ってしまうと誰が訳しても変わらないものだと思っていたので、そこまで考えているとは驚きました。(神田外語大学・3年)

- ◆渡部 美貴先生：通訳と翻訳の違いを学んだ。大きな違いは「話し言葉」か「書き言葉」であるが、どちらも直訳ではない。今回は通訳ではなく、翻訳を主に講義をしていただいた。翻訳で一番大切なことは、調べること。単語を辞書で調べるだけでなく、書かれている事柄は本当にあるものなのかまで調べなければならない。ここまで調べるのかと驚く部分が沢山あった。翻訳は簡単なことではないことがよく分かったし、翻訳で調べることが重要なように、語学習得でも調べることの重要性がよくわかった。(関西外国語大学・2年)

- ◆アルセニオ サンス リベーラ先生：日本人よりも日本のことをよく知っていらっしゃる先生だと思いました。講義の中でGoogle翻訳を使った面白い間違いを見せてもらいましたが、翻訳は機械ではなく、まだ人間がすべきことの1つだと思ったので、これからも言語学に励んでいきたいです。(京都外国語大学・1年)

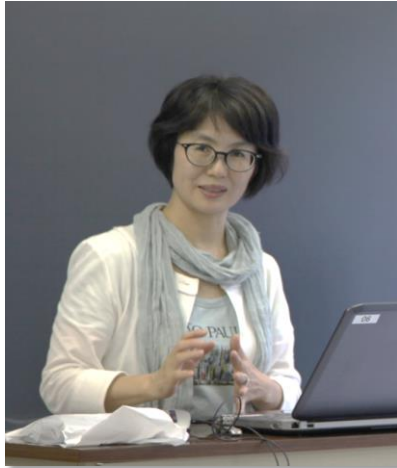
- ◆アルセニオ サンス リベーラ先生：翻訳の大事さを学んだ。実際に翻訳された看板などを見ていたが、インターネット翻訳を使用して翻訳されたものの酷い表現などを見て、やはりインターネットなどはまだ信用しきれないと思った。また実際にスペイン語から日本語へ翻訳するにあたって、大事なものは直訳することではなく、いかに内容や雰囲気が相手に伝わるかなのだと思った。(東京外国語大学・2年)

9/7(木)

比較文化論（受講言語：ポルトガル語）

講師

神田外語大学 イベロアメリカ言語学科
ブラジル・ポルトガル語専攻 非常勤講師
東京学芸大学大学院（博士）教育学
在外ブラジル人の教育を研究
拝野 寿美子



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆ブラジルというまだあまり知られていない国で、学者はそろって『多様な国』という説明をします。拝野先生はそこに疑問を持ち、ご自分の目で見たブラジルを探されていました。私も周りの評判に影響され過ぎず、自分の物差しでその国と向き合っていると思います。（神田外語大学・4年）
- ◆拝野寿美子先生の講義を受けて、私が考えたことや感じたことは、神田外語大学のブラジルポルトガル語専攻生である以上4年間で1つでも多くのブラジルについての知識を学ぶことが求められているということです。1年次は、必修科目としてブラジルについての基礎知識や歴史や文化を学ぶ授業があり、最低限の知識を得ることが出来ました。しかし、後期ではブラジルについて触れる授業が無いため、自ら学ぶということをしないと折角得た知識が自分の中で定着しないと考えています。なので、最低限の知識を2年次でしっかり活かしていけるように、言語の勉強と並行して自ら進んで積極的にブラジルについて勉強していきたいと思います。（神田外語大学・1年）
- ◆ブラジルについて分野に分けて学習した。ブラジルという国は東西南北の地区によって大きく文化や食事、生活なども違うことを学んだ。本や教科書などから異文化の違いを学ぶよりも何よりも一度行って体験し、体に取り入れてしまうことが異文化を学ぶ上で1番良いと先生はおっしゃった。（神田外語大学・1年）

9/7(木)		通訳・翻訳技法①② (受講言語：ポルトガル語)	
講師	神田外語大学 イベロアメリカ言語学科 ブラジル・ポルトガル語専攻 准教授 (元) 外務省専門調査員、国連平和維持 活動選挙監視員 国際協力機構 (JICA) 長期派遣専門家として活躍 高木 耕	千葉県生まれ 1978-80 在日ブラジル大使館勤務、 1991年より鹿島アントラーズ、日本サッカー協会 (JFA) で ジーコ代表監督の専属通訳者 鈴木 國弘	



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆高木 耕先生：通訳と翻訳技法を知ることが語学学習をするにあたって、とても役に立つことが分かりました。教えていただいたことは誰でもできて、日常生活ですぐにできるものだったので、それを使って自分の語学能力を向上させたいです。(神田外語大学・1年)
- ◆高木 耕先生：いつもお世話になっている先生ですが、改めてすごい人生を歩まれているなと思いました。通訳の方法、語学の学習の仕方など教えていただき、今後の学習に活かしていこうと思います。私の憧れと同時に、先生を超えることが目標なので、お話しでき、モチベーションが上がりました。(神田外語大学・4年)
- ◆鈴木 國弘先生：この講座では、鈴木先生が通訳を仕事で経験したことについて聞くことができました。通訳はとても大変で、プレッシャーがかかる職業であることが分かりました。しかし、それでも諦めずに挑戦すれば楽しい生活になると感じました。なぜなら、毎日自分の力を出し切れるからです。(神田外語大学・1年)
- ◆鈴木 國弘先生：ジーコ監督との出会いからその後の通訳者としての人生は、正に神様のお導きのごとくでした。「とにかく進んでみて、何となくとんとん拍子に進んだ道を進めばいい」というお話が印象的で、肩ひじ張らずとりあえずやってみる勇気が付きました。(神田外国語大学・4年)

講師

(株)やまごころ 取締役営業統括部長
東京外国語大学外国語学部タイ語専攻卒
旅行会社にてインバウンド海外市場分析・海外営業を統括
中澤 龍



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆近年多くの観光客が日本の様々なスポットの訪れていますが、人口の移りを誘導する策やそのために必要となるプロセスなどを学びました。海外の方が日本のどのようなところに魅力を感じているのか理解できたので、通訳ボランティアを行う際にはその知識を元に視野の広い考え方をもちたいなと思いました。(関西外国語大学・1年)

◆訪日外国人が増えているということをもたは漠然と受けて止めているだけではないと思いました。日本には、公にされないような地方自治体の魅力がまだまだたくさん潜んでいると思います。それをオープンにできる絶好の機会と捉え、今後様々な工夫を考えていく必要があると感じました。外国人の目に留まり注目度が上がれば、私たち日本人もまた、今まで知らなかった日本の隠れた魅力に気づくことができます。訪日外国人の増加には、観光業界だけでなく他業種の企業にとっても、新たなビジネスを生み出すチャンスが潜んでいると思います。そのチャンスを生かし、日本と海外との交流をより深めていければ良いと思います。(神田外語大学・4年)

◆昔と今日の外国人が日本を訪れる理由などを比較し、外国人が今日本の観光スポットに求められているのが変わっていることを学んだ。これまでは東京・大阪・名古屋のような都会に外国人が訪れていたが、今日では地方を訪れる外国人が多いことを知った。また通訳案内士の現状が変わりつつあり、資格が無くても案内ができることも知った。地方出身の自分にとっては、地方には都会とは対称的な良さがあるものの、案内士が少ないと感じる。この講義を通して年々外国人が求む日本は変わってきており、また東京オリンピックやラグビーのワールドカップなど外国人が日本を訪れる人数が増加すると思う。外国人を満足させるために、地方の通訳案内士としてサポート出来るような人材を目指したい。(長崎外国語大学・1年)

講師

(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 理事
元バルセロナ五輪・アトランタオリンピック女子バレーボールUSA代表
ヨーコ ゼッターランド



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

◆バレーボール選手として活躍されていたヨーコさんの言葉で、ご自身のアスリート人生についてお聞きすることができて、本当に良い経験となりました。ヨーコさんが話されていくにつれて、どんどん感情を強く込めて私たちにお話をしてくださっている姿が、本当にバレーボールを愛して、競技をされてきた方なんだな、と競技への愛をひしひしと感じて、とても素敵だった。中でも、他の話をしている時よりも強く心に刺さった言葉が、「プレッシャーに耐えられないなら、トップアスリートにならない方がいい」だった。実際私はトップアスリートを応援する側にいるが、試合会場でも応援していても、その数や声援の大きさに毎回圧倒される。そのプレッシャーを背負って戦いに挑むということは、アスリートにとって幸せであると同時に、大きな負担になるのではないかと考えることもよくある。競技は違えど、実際にアスリートの方から力強い言葉を聞くことができ、これからも応援していこうと思えた。(神田外国語大学・3年)

◆実際にオリンピックに出場経験のある方の言葉からは、強い思いが伝わってきました。アスリートという厳しい世界では、たくさん難しい課題に何度もぶつかります。しかしそれは私たちも同じで、そんなときに、まずは挑戦すること、目標をすぐに変えないこと、あきらめないことを念頭にがんばれば、きっと実現できるということを教えていただきました。またスポーツを通していろいろな国の壁を壊すことができる、その手助けを将来通訳としてできたらいいなと思いました。(名古屋外国語大学・1年)

◆人を助けるためにはまず自分がしっかりしなければならない、というお話に感銘を受け、また、通訳ボランティアにも強く通ずるところがあると感じました。また、人と違って当然で、だからこそ面白くなる、という話も印象的でした。きちんと英語力・通訳に必要な力を身につけ、私自身の強みを見つけ、磨き、私にしかできない魅力ある通訳ボランティアになりたいと思いました。逃げずに、目の前の物に集中して、信じてあきらめずに頑張りたいと思います。(関西外国語大学・4年)

◆一人のアスリートがどのようにしてオリンピック選手になったのかについて知り、そこから人間力について学びました。自分の強みと弱みを知ることの大切さ、訪れる機会に飛び込み脅威に打ち勝つ心強さをヨーコ・ゼッターランドさんの講演から感じました。ただ通訳するだけではなく、選手のバックグラウンドを知り、理解することがとても大事だと思いました。(京都外国語大学・1年)

9/8(金)

グローバル化と音楽

講師

米国Berklee College of Music
Professional Music Major Guitar Department卒
2005年～2008年島村楽器ミュージックスクールギター科
講師
吉原 聡

米イェール大学卒（哲学・政治学）。同音楽院にて
チェロの研鑽を積む。
チェロ演奏活動に加え、2015年よりリベラルアーツ塾
ライシウム代表。
ウェブサイト: www.christophersgibson.com
クリストファー 聡 ギブソン



参加者課題『講義レポート』より

※編集の都合上、一部表現を編集しているものがあります

- ◆言語と音楽に共通点を見出したことが今までになかったが、今回の講義を受けて、異文化理解という共通点を知ることができた。言葉は国によって発音や文法など様々である。また、音楽も同様に国によって音階が様々である。言語も音楽もお互いの国の違いを知り、尊重することが可能だ。音楽は言葉は違っても世界と結び付くことのできるツールの一つであることに気づいた。(名古屋外国語大学・1年)
- ◆実際に音楽を聴いたり、音階をみたりして音楽の場からグローバル化を学んだ。音楽には国内外問わず様々なジャンルがあり、グローバルの要素の1つになっている。音楽は言葉と共通して世界中に発信できるが、言葉と違って言いかえる必要がなく、伝わりやすいことを改めて理解した。また日本の楽器が世界で需要が高いのを初めて知った。音楽はスポーツと同じように言語に関わらず世界中に発信できるツールの1つである一方で、各国で作られる音楽で音階が異なる。またシャープやフラットのような調子を変えることで雰囲気が変わることで印象が変わるため、異文化理解にもつながる。この講義を通して音楽はスポーツと関わりが無いようにみえるが、異文化理解の面でみえると大切な要素であり、通訳ボランティアで活躍するときには大切であると知った。今後は異文化理解のためにも積極的に音楽に耳を傾けていきたい。(長崎外国語大学・1年)
- ◆4日間数多くの講義がありましたが、吉原先生とギブソン先生の講義が一番楽しかったです。私は音楽が大好きで、小学生の頃から10年以上続けているので、両先生の講義はとても聞き入ってしまいました。ペンタトニック・スケールについては初めて知るばかりで、もっと学んでみたいと思いました。たとえば言葉で通じ合えなくても、音楽であれば心を通わせることができるかもしれない。このように、音楽には私たちがまだ感じたことのないパワーがたくさん詰まっていると感じました。ギブソン先生のチェロ演奏も素晴らしく、音色の美しさに心惹かれました。先述した通り私は音楽が好きですが、クラシックにはそれほど関心がありませんでした。しかし、ピアノやチェロの歴史背景を知ることができ、バッハやハイドンといった作曲家の曲をもっと聞いてみたいと思いました。音楽と言っても、その魅力を一言で表すことはできません。今後、今まで触れたことのないような音楽にもたくさん出会い、たくさんの魅力を見つけていきたいと思います。(神田外語大学・4年)
- ◆音楽と通訳には共通点はないのでは？とはじめは思いましたが、実は音楽は世界万国共通であり、言葉の壁がない一番のツールだと知りました。言語を学び、話せる言語数を増やすことは素晴らしいことですが、それとともに心を開き合い、言語関係なくリズムにのることのすばらしさに感動を覚えました。オリンピック大会の際、選手とのアイスブレイキングで音楽について話してみたいと思いました。そして、この授業で演奏されたすべての曲に圧倒され感動しました。この感動は万国共通です！(京都外国語大学・1年)

5. セミナーの様子（写真）



▲神田外語大学長より挨拶



▲基調講演の様子 橋本聖子議員



▲日本文化の理解 茶道 菊池講



▲スポーツを通してグローバル人材とは何かについて語る 本学 朴



▲ホスピタリティマインドの実践 筑波大学客員教授 江上いずみ



▲パラスポーツ体験講座



▲受講者356名